



園だより

10月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和8年9月30日発行

セミの翅（はね）

園長 佐藤 淳穂

ヒマワリが種を結び、ヒガンバナが花を咲かせ、キンモクセイの香りに包まれた9月が過ぎました。すっかり季節がすすんだ園庭で、子どもたちがセミの翅を拾ってきました。最後にセミの声を聞いたのはいつだったのでしょうか。Aさんが「これはクマゼミだな」と言いました。セミの翅を置くコーナーを作ると、Bさんは茶色の翅を見て「こっちはアブラゼミだ」と言いました。Cさんが虫メガネを持ってくると、3人は真剣な表情で観察し始めました。「口はどこだ」「こっちはメス」と図鑑を広げ、「翅に点々があるのはミンミンゼミ」と裏返しにしたり見比べたりしていました。



そこへ鬼ごっこの誘いが来ました。AさんとBさんは外へ行く準備をしましたが、Cさんは「ぼくはセミ実験をするから」と誘いを断りました。賛同しないCさんに少し戸惑ったBさんは、「鬼ごっこしながらセミの翅を探してくるから」と言って庭へ出て行きました。

セミ実験に残ったCさんは、白い紙に鉛筆でセミの翅を描き始めました。規則正しい翅の模様を丁寧に描いていました。クマゼミやミンミンゼミの透き通った翅は美しい脈を際立たせています。私が消しゴムと鉛筆削りを置くと「ありがとう」と言ってすぐに絵の続きに集中していました。そこへ二人が帰ってきました。「セミ実験」が気になってすぐに戻ってきたのです。Cさんの細かい翅の絵に感心した二人は、自分たちの座席も横に作って絵を描き始めました。



何日も続いた「セミ実験」では、本が作られました。描いた紙がまちまちで素朴な装丁ですが、セミやトンボの翅の本、お菓子を探しながらいろいろな虫に出会うお話、香りをテーマにした「なんのにおい？」という絵本など、どれも園庭の虫や草花が登場する傑作です。創作絵本は投影機で映して披露してもらいました。そして、今、本作りの小さなブームが来ています。手作り絵本やさんに借りにきたいちご組が何冊もの本を抱えて廊下を歩いています。